

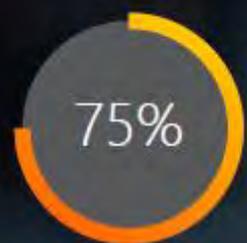


生成AI 企業はいかにして 備えるべきか

Do what matters

AIで働き方への未来を切り開く

生成AI、中でもOpenAIやマイクロソフトにより普及したGPTなどの大規模言語モデル（LLM）によりAIが民主化されたことで、突如、新たな時代の幕が開かれました。かつてAIを利用できたのは、大規模な演算能力と年間何十億ドルもの予算を確保できる一握りの企業のみでしたが、今やすべての人が手にし、カスタマイズして利用可能な「副操縦士（Copilot）」として普及し、働き方や消費、日々の生活の質を高めています。しかし、先日実施された**アパナードのトレンドライン調査**によると、昨今の厳しい世界経済情勢を反映してデジタルイノベーションへの意欲は削がれる傾向にあり、多くの企業の経営陣がカーボンインパクトやAIの一般的安全性に対する懸念を強めていることが明らかになりました。ガバナンスや持続可能性、効率性を考慮しつつ、備えを固めるためには、企業はどうすればよいのでしょうか。このガイドでは、生成AIを導入する際に必要な準備について、重要なポイントに絞ってご紹介します。



景気後退やインフレの影響により、今後12～18カ月のデジタル投資が制限されると回答した企業の割合

一方で



事業運営やAIを含むITインフラストラクチャでエネルギー資源を利用していることによるレピュテーションリスクに対し、自社は脆弱であると回答したITリーダーやビジネスリーダーの割合

画像は生成AIにより作成。ソース：AdobeStock

AIにより実現する 人間の無限の可能性

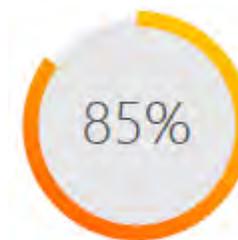
アバナードがビジネスリーダーやITリーダーを対象に先日実施した調査によると、今後18~24か月の間にAIにより収益が増大すると見込む回答者の割合は85%でした。データやインサイト、そして他の人々への前例のないアクセスを提供するマシン（AIコパイロットやデジタルツインなど）の普及に伴い、我々はその助けを借りて新たな「超人的」な業務処理能力を次々と獲得することが期待されます。この傾向は、今後数年でさらに進化していくでしょう。人間とマシンの集合知によって生まれるこの新しいコラボレーションは、働き方の価値や柔軟性をさらに高めるでしょう。人間と機械の集合知により実現するような新しいコラボレーションは、働き方の価値や柔軟性をさらに高めるでしょう。

複数の企業が生成AIを活用し、ビジネスの変革を目指している

「あらゆることがAIになる未来」などと言うと非現実的に聞こえるかもしれませんが、世界中の企業は長年にわたり、生成AIの可能性を模索してきました。今や、生成AIの可能性は、実現される未来という概念にとどまらず、通常のビジネスそのものになりつつあります。以下では、アバナードのサポートにより生成AIの可能性を発見し、実用化を成功させたクライアント企業の事例をご紹介します。

- あるサービス企業では、intent分類、キーの抽出、テキストの標準化などのタスクについて、顧客文書の検証（コンプライアンス、完全性、正確性など）において、既存の水準と、生成AIモデルのパフォーマンスを比較して評価しています。

- ある製造業者は、生成AIを使ってデザイナーやエンジニア、マーケティングチームにインスピレーションを与え、新しい製品設計の作成や提供を行うという着想を得た。
- ある非営利組織は助成金のレポート作成支援（コパイロット）として生成AIの活用を進め、関連する事務作業にかかっていた時間を、非営利組織としての中核的業務に振り向けられるようになった。
- ある石油・ガス事業者は、既存の大量のテキストデータ（コーパス）や、そのデータの関連性や概念を定義する枠組み（オントロジー）を、生成AIと統合することで、トラブルチケットに関するナレッジ管理と検索結果を改善した。



今後18~24か月の間にAIにより収益が増大すると見込むビジネスリーダーとITリーダーの割合

画像は生成AIにより作成。ソース：AdobeStock

AI導入に向けた準備に終わりはない

絶え間ない変化が続く中、企業やその従業員が責任を持ってAIを活用し、業務やイノベーションに対応できるようにするには、リーダーが率先してその環境を整備することが重要です。以下にご紹介する基本原則をただちに実現し、AIによるビジネスの価値実現を促進するとともに、AIファーストの mindsetを取り入れましょう。



多角的なアプローチで、成長の機会をつかむ

リーダーは、AIの技術的な影響を考慮するだけでは不十分です。AIの導入に備えるには、ビジネス面とITの両方を含む多角的なアプローチが必要です。



AIをコパイロットとして活用することで、従業員の能力を高める

AIコパイロットは従業員に取って代わるものではなく、その支援をするものです。AI導入に向け従業員の準備を整えるには、適切な変更管理を実施し、従業員が不安なく能力を発揮できるようにする必要があります。



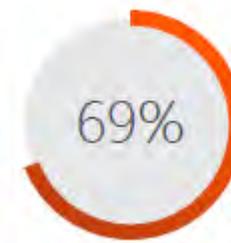
指針を示し、全社的に信頼性を高める

個別の指針やポリシーを策定することで、従業員が責任を持って生成AIを活用するシーンやタイミング、方法を理解できるようにします。



強力なデジタルコアでアジリティを確立する

AIの能力をフル活用するためには、AIに対応したクラウド、最新のデータ、アナリティクス、AIプラットフォーム、および自社の独自データとの安全な統合が必要です。



現在および将来のAIの活用状況を前提とすると、自社はレピュテーションリスクに対して脆弱であると感じるビジネスリーダーおよびITリーダーの割合

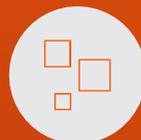
マイクロソフトを活用してAIの技術的な準備を加速する

企業の統一性を高めるには、マイクロソフトへの投資効果を活かし、従業員にAIを浸透させる必要があります。マイクロソフトはOpenAIや大規模言語モデル（LLM）の開発、生成AIの領域に長年投資してきただけでなく、影響力の大きい製品や機能を継続的にリリースすることで、現場労働者や「ナレッジワーカー」、開発者を含むすべての人々を対象にAIの民主化を実現してきました。その取り組みの一部をご紹介します。



Microsoft Fabric

マイクロソフトが提供する、データ、アナリティクス、AIのためのエンドツーエンドの統合型プラットフォーム。新しいデータ基盤のアプローチを提供することで、企業が今日の生成AIテクノロジーや、今後急速に進化するAIイノベーションの価値を最大限に活用できるよう、その準備をサポートします。 [アバナードが自社のデータ戦略を強化する際に得た教訓はこちら](#)



AI Copilot

まもなくマイクロソフトのエコシステム全体に組み込まれる予定です。これにより、マイクロソフトのクラウド、ワークプレイス、セキュリティ、ローコード/ノーコードツール、ビジネスアプリケーションを利用する開発者、製作者、ビジネスユーザーは、AIとのコラボレーションにより業務を効率的に進められるようになります。



Azure AI Studio

開発者は、自社独自のデータのコンテキストに合わせてAIコパイロットを作成することで、生産性を向上させ、豊富なインサイトを備える充実した業務体験を創出できるようになります。

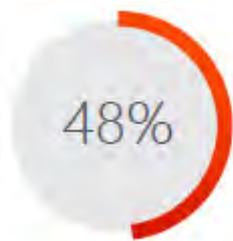


さらに、組み込み型のセキュリティやガバナンスがデータの信頼性を高め、責任あるAIの基盤を築くことができます。

責任あるAIの フレームワークで 新たなビジネス に取り組む

私たちが形作る未来の世界では、あらゆる取組みが信頼性を中心に進められ、それはテクノロジーの活用においても同様です。一度失った信頼は、二度と取り戻すことはできません。AIが携帯電話やインターネットのように普及するなか、企業は今すべき大切なことは何か、どう取り組めるか、取り組むべきかについて改めて考える必要があります。

いくつかの傾向から、企業は独立志向から脱却し、代わりに信頼とエコシステムの協力を重視して、より責任あるリソースの活用を目指していることがうかがえます。公平性、安全性、透明性がAIやネットワーク、クラウド、デバイスのあらゆる側面に組み込まれることになるでしょう。責任あるAIを意識して取り組むことで、そのような信頼性の確立に今すぐ着手することが可能になります。



約半数（48%）の企業が、責任あるAIに関する個別のガイドラインやポリシーをまだ未だ施行できていない

画像は生成AIにより作成。ソース：AdobeStock

生成AIで責任あるイノベーションに着手するためのヒント

ITリーダーの中には、自社の独自データを安全にAIに学習させる方法や、AIのプロセスおよび利用全体に透明性を組み込む方法について、懸念されている方もいらっしゃるでしょう。そこで、イノベーションに着手する実践的な方法をご紹介します。



1. 最も重要な質問、「なぜ？」から始める

生成AIも他のすべてのテクノロジートレンドと同じく、使用する理由、根拠についてユーザー自身が真に理解して初めて、その価値を発揮します。どのような問題を解決したいのか？ビジネスケースは蓄積されているか？本当に達成したい成果やメリットは何か？生成AIを採用する際は、単に導入することだけでなく、なぜ自社のビジネスにとって導入価値があるのかを明確にすることが重要です。



2. 適切な基盤を確立する

既存のチャットボットなど、すでに何らかの機能を実装している分野から、簡単にスタートすることをお勧めします。そして、OpenAIの機能の導入や統合が、モジュール的でスケーラブルに行えるユースケースを選び、継続的にそのモデルのパフォーマンスを評価していきましょう。



3. AI導入への従業員の対応力を高める

生成AIは、単にコスト削減や自動化だけのものではありません。AIの導入や変更に対応するためのサポートを通じて、AIが生成したコンセプトを微調整、改善、補完、そして承認するという一連の流れを、従業員が反復的に作業できるようになります。AIは従業員の生産性を向上するツールであり、彼らに置き換わるものではありません。



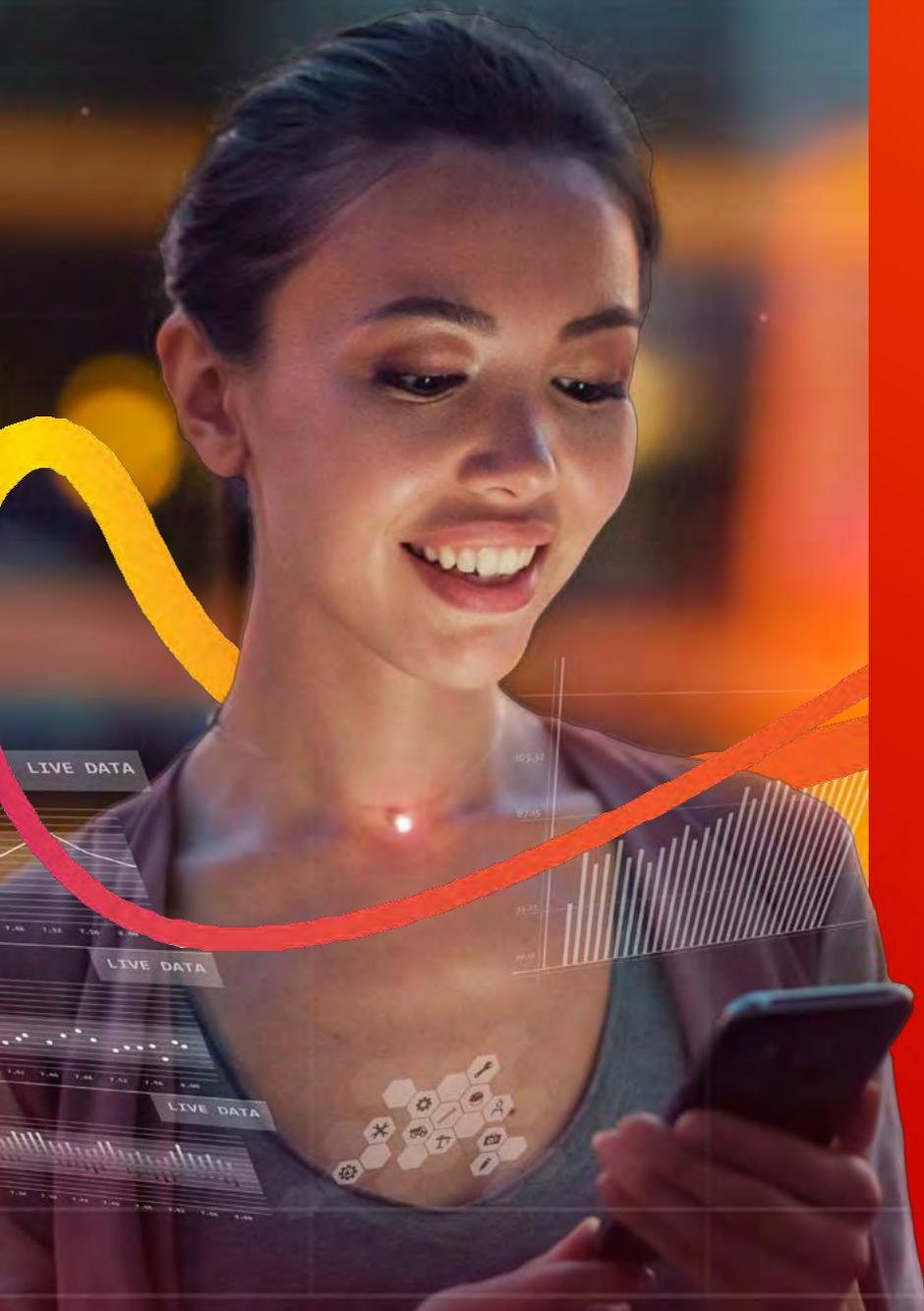
4. 責任あるAIアンバサダーを指名する

特定のユースケースを選定し、その領域の、高品質で多様なデータの活用可否を検討してください。さらに、そのモデルを迅速に繰り返し再学習できるように、専門家（SME）からのフィードバックを取り入れられる体制構築を考慮しましょう。



5. ガバナンスを確立する

AIを調査、検証、改善し、ビジネス全体で活用するために、機能の一元化（セントラライズ）を検討してください。また、リスクや制約、不確実性がある中で、顧客やパートナー、従業員とは、透明性のある強固なアプローチとコミュニケーションが重要になります。リスク管理や緩和に関する計画を策定する際は、影響を受けるステークホルダーや法的要件に沿った内容にする必要があります。



信頼できる 経験豊富な パートナーを 見つけ出す

地球上で最も多くのMicrosoft MVP、マイクロソフト認定資格、マイクロソフトパートナーアワードを獲得するアバナードは、お客様のAIジャーニーのフェーズにあわせて、AIがもたらすすべてのメリットを活用できるようお手伝いしながら、テクノロジー投資のリターンを最大化します。アバナードの専門家は、マイクロソフトとの統合を開始した当初からOpenAIと協業しているため、テクノロジーや人材のイネーブルメント、責任あるAIについて共に培ってきた知識を活用することができます。

アバナードが貴社の生成AI導入をサポートします。

AIジャーニーのフェーズを問わず、アバナードはお客様の役に立つワークショップやアセスメントを提供します。個別のお問合せについてはこちらからご連絡ください。

画像は生成AIにより作成。ソース：AdobeStock

アバナード株式会社

〒106-6009 東京都港区六本木1-6-1泉ガーデンタワー

電話番号：03-6234-0150

ウェブサイト：<https://www.avanade.com/ja-jp>

お問い合わせ：<https://www.avanade.com/ja-jp/contact>

アバナードについて

アバナードは、マイクロソフトのエコシステムの力を活用し、革新的なデジタル、クラウド、およびアドバイザリサービス、業界ソリューション、デザイン主導のエクスペリエンスを実現するリーディング プロバイダーです。26カ国に60,000名のプロフェッショナルを擁し、日々お客様とその従業員や顧客に真のヒューマンインパクトを与えています。アバナードは2000年にアクセンチュアLLPとマイクロソフトコーポレーションによって設立されました。詳細については、www.avanade.comをご覧ください。

- Avanadeおよびそのロゴは、Avanade Inc.の登録商標です。このドキュメントに含まれる会社名及び製品は、各社の商標または登録商標であり、会社及び製品の名前、商標、または著作権は、それぞれの所有者に帰属します。
- このドキュメントは情報提供のみを目的としており、お客様と弊社の間ビジネスまたは専門的なサービスの関係をお約束するものではありません。このドキュメントの情報は2023年9月現在のものであり、何らかの法的な保証をお約束するものではありません。また、記載されるサービス内容その他の情報は予告なしに変更される場合があります。
- このドキュメントおよびここに含まれるコンテンツは、弊社の事前の書面による同意なしに、いかなる方法でもコピー、複製、再発行、アップロード、投稿、送信、または配布することはできません。



Do what matters